風

竹久夢二

青空文庫

風が、山の方から吹いて来ました。学校の先生がお通りになると、街で遊んでいた生徒達が、みんなお辞儀をするように、風が通ると、林に立っている若い梢も、野の草も、みんなお辞儀をするのでした。

風は、街の方へも吹いて来ました。それはたいそう面白そうでした。教会の十字塔を吹いたり、煙突の口で鳴ったり、街の角を廻るとき蜻蛉返りをしたりする様子は、とても面白そうで、恰度子供達が「鬼ごっこするもん寄っといで」と言うように、「ダンスをするもん寄っといで」といいながら、風の遊仲間を集めるのでした。

風が面白そうな歌をうたいながら、ダンスをして躍廻るので、干物台のエプロンや、子供の着物もダンスをはじめます。すると木の葉も、枝の端で踊りだす。街に落ちていた煙草の吸殻も、紙屑も空に舞上って踊るのでした。

その時、街を歩いていた幸太郎という子供の帽子が浮かれだして、いつの間にか、幸太郎の頭から飛下りて、ダンスをしながら街を駆けだしました。その帽子には、長いリボンがついていたから、遠くから見るとまるで鳥のように飛ぶのでした。幸太郎は、驚いて、「止れ！」と号令をかけたが、帽子は聞えないふりをして、風とふざけながら、どん

どん大通りの方までとんでゆきます。

一生懸命に、幸太郎は追っかけたから、やっとのことで追いついて、帽子のリボンを押えようとすると、またどっと風が吹いてきたので、こんどはまるで輪のようにくるくると廻(まわ)りながら駆けだしました。

「坊ちゃん、なかなかつかまりませんよ。」

帽子が駆けながらいうのです。

すると、こんどは大通(おおどおり)から横町の方へ風が吹きまわしたので、幸太郎の帽子も、風と一しょに、横町へ曲ってしまいました。そしてそこにあったビール樽(たる)のかげへかくれました。

幸太郎は大急ぎで、横町の角まできたが、帽子は見つかりません。

「ぼくの帽子がないや」

幸太郎は、もう泣きだしそうになって言いました。帽子をつれていった風も、幸太郎を気の毒になってきて、

「坊ちゃん、私が見つけてあげましょう。」

そういって、ビール樽のかげの帽子のしっぽを、ひらひらと吹いて見せました。幸太郎

は、すぐ帽子のある所を見つけました。

「万歳！」

幸太郎は、帽子の尻尾(しっぽ)をつかんで叫びました。

「風やい、もう取られないぞ！」

幸太郎は、帽子のつばを両手で、しっかり握っていいました。

「ほう、ほう」風はそう言いながら、飛んで行きました。

エプロンも、木の葉も、紙屑(かみくず)もまたダンスをしていたけれど、幸太郎の帽子はもうダンスをしませんでした。

青空文庫情報

底本：「童話集　春」小学館文庫、小学館
　　2004（平成16）年8月1日初版第1刷発行
底本の親本：「童話　春」研究社
　　1926（大正15）年12月
入力：noir
校正：noriko saito
2006年7月2日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

風

竹久夢二

２０２０年　７月１８日　初版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　http://aozora.xisang.top/
BiliBili　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/